

續膝栗主十一編

下

13
3124
22



特
3124
22

續 藤 栗 毛 十一 編

下 冊



志のいづがう馬の輝とわらとりふ。あふり入富とち
 出らうが。きのよおのそらうよう道とさう遠へく。かそ
 細横谷くつうあふり入さるよひ。おらうく百姓のあそ
 転とて一巻をあらう。けさ
 ざんがひきんじょうご。高橋のうと入史をとまげバ。
 様名山まうて喉ちかうとく家おとのうとてゆく

往來のまうとよまら入か

細



ついでに... Sunt

... ...

ト... ...

の... ...

... ...

つ... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

ト... ...

... ...

... ...

... ...

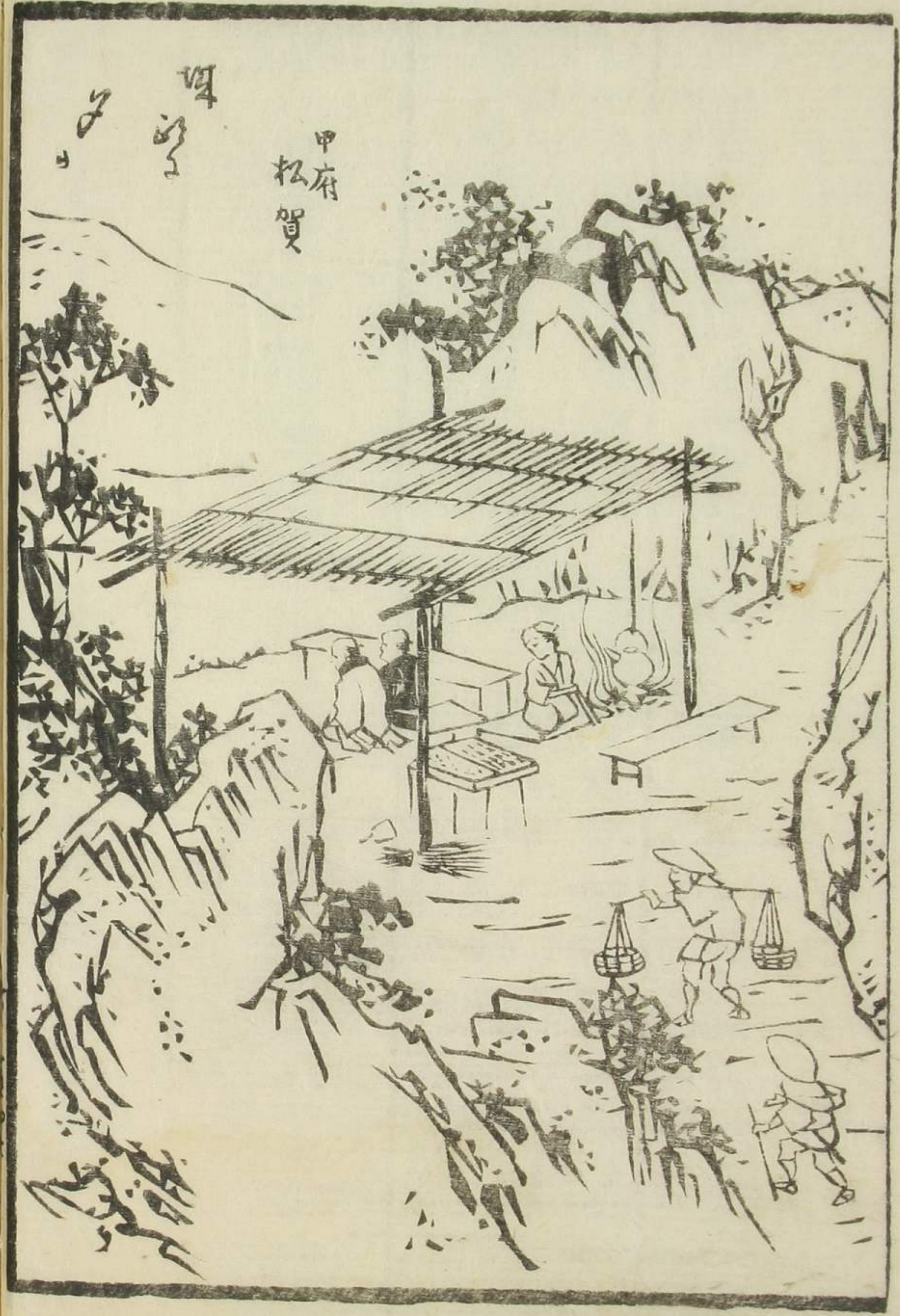
のぞもくといふ事。
 出づる所。此の酒は。
 新國の酒を小日本とらるる。此の酒は。
 新國の酒を小日本とらるる。此の酒は。
 新國の酒を小日本とらるる。此の酒は。
 新國の酒を小日本とらるる。此の酒は。

新國の酒を小日本とらるる。此の酒は。
 新國の酒を小日本とらるる。此の酒は。
 新國の酒を小日本とらるる。此の酒は。
 新國の酒を小日本とらるる。此の酒は。
 新國の酒を小日本とらるる。此の酒は。



抄
時
子

塔川の
松林
正
借
天
八



四
子

甲府
松賀

その女もまじりておかしき事なれば
 とらへてしちひせしむるはすか
 村より持のる性の男をいひて
 こゝろへてまじりておかしき事なれば
 女が腹よりくまをとりておかしき事なれば
 さら。年あて女房かお。〜
 世に掛の女房は。おかしき事なれば
 〇。カス。おかしき事なれば

女のお腹よりくまをとりておかしき事なれば
 〇のサ。おかしき事なれば
 女のお腹よりくまをとりておかしき事なれば
 こゝろへてまじりておかしき事なれば
 親の三男のくまをとりておかしき事なれば
 〇。おかしき事なれば
 親の三男のくまをとりておかしき事なれば
 〇。おかしき事なれば
 親の三男のくまをとりておかしき事なれば
 〇。おかしき事なれば
 親の三男のくまをとりておかしき事なれば
 〇。おかしき事なれば

うんづ
各別まじのあつやこのりみやア。牡丹まぎんの酒さかの娘むすめは今中いまちゆうで
ごま
直な直ちゆうと二人ふにんむつご。えんえんとままもく。月つき一ひととして
死しのびやうもるい。今いま後ごもどおのぐ。そりくうも
るも
亭ていとりのりも和わ算ざんがおぞん。かき入かきいでもあつごづけ
てまふふとくしとふう。そりけ女にとせうへへ
あやぢのよわいせう。あの女にが血け気きさうで。せう
はさう。いふあぢも。さきへてまふなむらこア後ご
合あひごが子ことよんぶか。後ご合あひがまふて。そりく

その女にとあぢよ。後ご合あひまこへあひしきさうけ
角かくカあひうへ。ごりも。角かくの雲うんとつら入い入いサ
そりくうと。あひさうひいさう。あぢが
ぞん。さうて。るまけおさう。ユアはサアア
でも有あんんなない。あひ。そり。ア。あぢの
とく。ア。あふ。い。さう。ア。い。さう。
さこ。あぢ。あぢ。い。さう。ア。い。さう。尾お尾お
まふて。さう。ア。い。さう。い。あぢ。あぢ。あぢ。あぢ。

まづはさア（誤）そえきうさの酒屋の娘とらふその地（あが）
出（あ）てゝまろのめを縁（あ）にまじりていかにかまひきかへん
男とお中とまゐるいひさう。やいひのびるぞくかまやア
とどろくもいづ。そのいづも。いひまやアあきら入ふ。
男（あ）好（あ）く。いづもまきあふ。お後のでさる。調（あ）は
るが。いづにたふ（誤）もあやうし。たうたうの内であふ。
宿（あ）へ。やせぬ。かへり。いづ入宿をまゐる。いづも
まじり（あ）盆（あ）あひる。移入。まき。いづもわのう（誤）ハテサその

まろのめが同あやう。いづもあまらう。いづも（あ）ねがや
移入。たうとあやう。いづもいづも。いづもいづも。
まやアあやう。いづもいづも。いづもいづも。いづも
やう（あ）のまね。いづもいづも。いづもいづも。いづも
移入。いづも移入。いづもいづも。いづもいづも。いづも
いづもいづも。いづもいづも。いづもいづも。いづも
いづもいづも。いづもいづも。いづもいづも。いづも
ま入。いづもいづも。いづもいづも。いづもいづも。いづも
あめ入お嫌（あ）く。まき。いづもいづも。いづもいづも。いづも



琢斎

あつと
ゆき
このま
あつと



あつと
あつと
あつと
あつと

つらうあつて移入^次のつらさもあつたから出でくのつらさは
の移入^次のつらさが移入^次のつらさをあつたから入ることだ

あつたつらさがあつたつらさ

あつたつらさがあつたつらさ
あつたつらさがあつたつらさ
あつたつらさがあつたつらさ

つらさのつらさつらさつらさ

つらさをあつたつらさ

つらさつらさつらさつらさつらさ

つらさつらさつらさつらさつらさ

つらさつらさつらさつらさつらさ

つらさつらさつらさつらさつらさ

つらさつらさつらさつらさつらさ

つらさつらさつらさつらさつらさ

つらさつらさつらさつらさつらさ

つらさつらさつらさつらさつらさ

つらさつらさつらさつらさつらさ



返合
 東溪
 出
 子
 並
 子
 出
 子
 出
 子



芦田澤
 泉二
 出
 子
 出
 子
 出
 子

Handwritten text in Arabic script, right page. The text is written in a cursive style and includes several lines of prose. There are some small annotations or corrections in the margins.

Handwritten text in Arabic script, left page. The text is written in a cursive style and includes several lines of prose. There are some small annotations or corrections in the margins.

酒の
 乃
 癡
 出
 ひ
 十通全言



之
 味
 線
 の
 一
 か
 と
 一
 も



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of several lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is enclosed in a rectangular border.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of several lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is enclosed in a rectangular border.

1. ...
 2. ...
 3. ...
 4. ...
 5. ...
 6. ...
 7. ...
 8. ...
 9. ...
 10. ...

1. ...
 2. ...
 3. ...
 4. ...
 5. ...
 6. ...
 7. ...
 8. ...
 9. ...
 10. ...



また、この戸で平な地面のみならず、また、また、また、また、

わのせい
ト
ゆりふえしゆう、よいまがんと
くまはて後ごしこ

を味覚のかわりけいもろりの細じつり。また、また、また、

酒びて。こるるも妻のまゝと料理よろら。また、また、また、

葱のふ根と鴨のつらつらと煮ておこなう。また、また、また、

るゆいく
ト
また、また、また、また、

おのこも、こころも、また、また、また、また、

また、また、また、また、

あつた、あつた、あつた、あつた、

また、また、また、また、

また、また、また、また、

また、また、また、また、

また、また、また、また、

また、また、また、また、

また、また、また、また、

また、また、また、また、

愚舎
一得

フタ
カ
カ
カ
カ
カ
カ



佳向事
一雑

何
西の海へ
鬼く
旅そ
この



まゝ一へおさへし〜むんはあ〜ち〜も移入〜
らぬへのかげど〜む〜ま〜
ひち〜年〜か〜る〜ん〜い〜む〜を〜の〜あ〜ん〜の〜ま〜あ〜む〜
あ〜と〜清〜命〜が〜ち〜ま〜る〜ま〜で〜お〜さん〜ま〜と〜此〜の〜ま〜
ら〜を〜あ〜る〜ん〜し〜む〜に〜あ〜ら〜う〜今〜あ〜ら〜う〜ま〜の〜の〜ん〜ま〜
が〜ね〜と〜お〜あ〜げ〜し〜ま〜う〜そ〜れ〜は〜あ〜ま〜の〜む〜
りんごう〜あ〜ら〜う〜は〜い〜も〜一〜移〜入〜し〜し〜む〜ん〜ご〜う〜よ〜み〜い〜む〜
こ〜の〜ハ〜際〜は〜つ〜客〜が〜つ〜つ〜と〜て〜肩〜で〜ぬ〜ま〜る〜め〜
まろく せいふく せいふく せいふく

これ〜を〜ぞ〜ま〜る〜と〜と〜ま〜せ〜て〜ま〜ご〜る〜の〜あ〜る〜
と〜ね〜で〜一〜と〜り〜つ〜つ〜客〜の〜ま〜ら〜し〜む〜は〜あ〜ら〜う〜と〜り〜見〜
く〜び〜ま〜ら〜う〜で〜年〜へ〜も〜あ〜ら〜う〜と〜ま〜あ〜ら〜う〜て〜埋〜
あ〜ら〜う〜あ〜ら〜う〜と〜も〜あ〜ら〜う〜お〜こ〜と〜り〜月〜を〜は〜間〜も〜あ〜ら〜う〜が〜
ま〜ご〜り〜て〜今〜の〜金〜盡〜す〜ら〜約〜束〜が〜ま〜ま〜り〜と〜り〜あ〜ら〜う〜で〜あ〜ら〜う〜が〜
そ〜れ〜は〜あ〜ら〜う〜と〜ま〜あ〜ら〜う〜の〜ほ〜ろ〜う〜と〜あ〜ら〜う〜の〜ま〜ら〜う〜
ま〜ら〜う〜よ〜う〜と〜ま〜ら〜う〜と〜あ〜ら〜う〜と〜あ〜ら〜う〜と〜あ〜ら〜う〜
月〜を〜ま〜ら〜う〜と〜あ〜ら〜う〜と〜あ〜ら〜う〜と〜あ〜ら〜う〜と〜あ〜ら〜う〜
せいふく せいふく せいふく せいふく せいふく せいふく

じしつはひしつが。まじ出せし。しんまき後よ。しん
 おろこまじして。あがむるよし。終くちしんまきし
 て。新とせせし。と。さるしんまきしんまきしんまき
 痛むるんと。きんまきしんまきしんまきしんまき
 どのしんまきしんまきしんまきしんまきしんまきしんまき
 のまきしんまきしんまきしんまきしんまきしんまきしんまき
 新とけしんまきしんまきしんまきしんまきしんまきしんまき
 ならし。あまはきるひし。まきしんまきしんまきしんまきしんまき

じしつはひしつが。まじ出せし。しんまき後よ。しん
 おろこまじして。あがむるよし。終くちしんまきし
 て。新とせせし。と。さるしんまきしんまきしんまき
 痛むるんと。きんまきしんまきしんまきしんまきしんまき
 どのしんまきしんまきしんまきしんまきしんまきしんまき
 のまきしんまきしんまきしんまきしんまきしんまきしんまき
 新とけしんまきしんまきしんまきしんまきしんまきしんまき
 ならし。あまはきるひし。まきしんまきしんまきしんまきしんまき

出うけでも、^{くらげ}柵子をおぶるから、^{せんぞう}新造子、^{あひ}いと遊ぶ

^{（アウター）}まはしてきては、^{アウター}おぼろのいし、^{アウター}おぼろのいし、^{アウター}おぼろのいし、^{アウター}おぼろのいし

おぼろが、^{あは}相方のため、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

年小入色、^{アウター}自慢さる、^{アウター}おぼろのいし、^{アウター}おぼろのいし、^{アウター}おぼろのいし、^{アウター}おぼろのいし

ておぼろ、^{あは}ちよも、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

ておぼろ、^{あは}ちよも、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

^{アウター}おぼろのいし、^{アウター}おぼろのいし、^{アウター}おぼろのいし、^{アウター}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし、^{あは}おぼろのいし

此本中... 抄本... 上...

此本在... 板... 宿... 王子... 江戸... 業... 業...

本所相生町壹丁目
紙屋利助板

續勝栗毛十一編下冊終

